

1 はじめに

笛水小中学校は、平成22年4月に隣接していた小学校と中学校が一つとなり、都城市で初めての小中一貫校として、新たなスタートをきって15年目となった。笛水小中学校のある笛水地区は、都城市の北辺の高崎町に位置し、豊かな自然に恵まれている素晴らしい環境である。

今年度、1年生を4名迎えて、全校児童・生徒は19名（小学部16名・中学部3名）となった。「感謝の心を持ち、笛水をほこれる児童生徒の育成」を学校教育目標とし、「笛水プライド」というスローガンの下、笛水小中学校の児童・生徒・職員であることへのプライドをもって教育活動を行っている。

2 特色のある教育の実践

(1) ふるさと学習

笛水地域公民館・笛水地域活性化委員会・笛水環境保全協議会が、全面的に学校に協力をしてくださる。協力していただいている大きな行事は、以下のものである。それ以外にも学校で芋を育てたいと相談すると、芋の苗をくださり、学校の除草剤散布や草刈り等はお願いしなくてもして下さる。

協力していただいていることに感謝し、ふるさとを愛する心をはぐくむことができていると考える。さらに、その笛水のためにできることは何か、という視点を子どもたちにもたせるように意識している。

① ふれあい会

今年度は、グランドゴルフを地域の方と一緒にしながら交流した。地域の方は、子どもたちに教えてくださり、さらに、子どもたちができるようになったことをほめてくださるので、楽しく交流していた。地域の方に手書きの招待状を渡し、受付やお茶接待、開閉会式など、準備から運営まですべて子どもたちの手で行った。直接子どもたちが地域の方にお礼を言われることで、自己有用感も育つと考えている。



【ふれあい会】

② 米作り体験

田植えから稲刈り、脱穀、餅つきまでの過程を、地域の方に教えていただいで体験している。田んぼの管理を日頃から地域の方がしてくださっている。

③ そば打ち体験

笛水活性化委員会からそば粉をいただき、地域の方の指導でそば打ち体験をしている。この体験も準備から運営まで子どもたちの手で行っている。



【合同運動会準備】

④ 地域との合同運動会

地域運動会と学校の運動会を合同で行っている。子どもたちも地域の方の頑張りを応援し、自分たちの競技では地域の方から声援をもらえることで、一体感を味わうことができている。また、子どもも職員も少ないため、地域の方も準備や片付けを一緒に行っている。テントはもちろん、入場門や団看板、万国旗の設営など大掛かりな作業を行ってもらい、大変助かっている。

⑤ 文化祭と地域の秋祭り

午後に学校の文化祭を行い、そのまま夕方から地域の秋祭りを学校において行っている。その際、地域の方がいつでも来校できるようにシャトルバスを出している。文化祭会場をそのまま秋祭り会場として使用し、祭りのプログラムにも子どもたちが参加している。



【文化祭】

(2) 小中一貫教育

① 相互乗り入れ授業

令和6年度は、中学部が1学年であるため、特に中学部が小学部に乗り入れ授業をすることができている。その状況は以下のとおりである（5年、7年〔中学1年〕、9年〔中学3年〕は在籍なし）。

【小学部 → 中学部】	保健体育（全学年）
【中学部 → 小学部】	社会（3、4、6年） 理科（4、6年） 図工（全学年） 外国語（6年）

② 校時程の工夫

1単位時間の授業の時間が、小学部は45分、中学部は50分のため、時間のずれが生じる。大きく時間がずれてしまうと、乗り入れ授業や小中一緒の行事等で不都合が生じるため、小学部の業間（20分間）と給食の時間で調整し、1、3、5校時の始まる時間を同じにすることで、それらを解消することができている。

③ 職員室での情報交換と共通理解

1つの職員室の真向かいに小学部と中学部の席を配置しており、普段から密に情報交換を行い、風通しも良い。常に会議や研修は一緒に実施し、毎週水曜日に「児童生徒理解」として、子どもたちの状況共有の時間をとっている。そのため、職員が、小学部、中学部の子どもではなく、笛水小中の子どもという意識をもっている。また、小・中学校の文化の違いを、良い意味で職員同士が認め合っており、ありがたいことに、よくある小・中学校の壁は感じられない。